

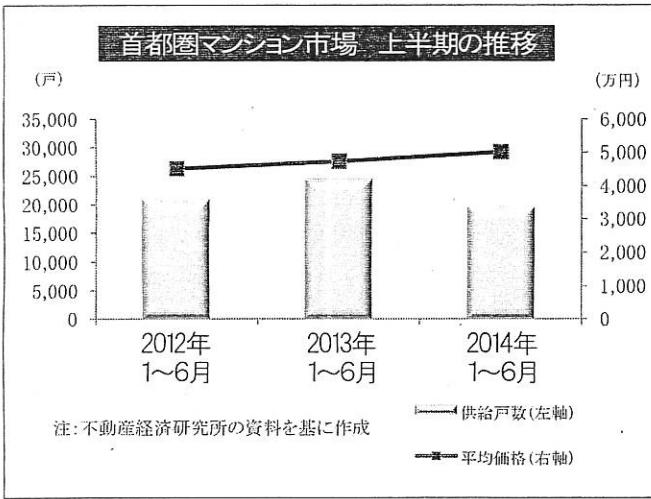
上4期 首都圏マンション市場

3年ぶり2万戸割れ

不動産経済研究所調べ

首都圏の分譲マンション市場が急変している。

不動産経済研究所(新宿区)の調べによる
と、2014年上半年(1~6月)に首都圏で
新たに供給された分譲マンションは1万939
戸で、前年同期に比べて20・2%減少し、3
年ぶりに2万戸を下回った。建築費が高騰した
影響で、マンションの販売価格は上昇基調にあ
る。以下の成約は堅調ながらも、デベロッパーは
顧客の反応を探りながら販売している状況だ。
同社はこうしたデベロッパーの慎重姿勢が供給
の先送りにつながっていると指摘する。東京五
輪関連や公共事業の増加で、職人の不足、建
築費の高騰が今後も続ければ、供給がさらに細ると
の懸念もある。



供給に先細り懸念

・1%上昇(4513万円)、単価は8・6%上昇(61・9万円)した。
上期の初月契約率は平均78・4%で、好不調の目安とされる70%を大きく上回った。上半期としては5年続けて70%台となつた。
6月単月の新規発売戸数は3503戸。前年同月に比べて28・3%減少した。1戸当たりの平均価格は4830万円で、前年同期比5・8%アップした。単価は5・2%上昇して70・7万円となつた。
東京都区部8827戸(シェア45・5%)、都下1672戸(8・6%)だった。シエアは0・2ポイント下げ54・1%だった。
神奈川県4598戸(23・7%)、埼玉県215戸(11・1%)、千葉県2138戸(11・0%)と1平方㍍当たりの単価が上昇した。平均価格は1戸当たりの平均価格と1平方㍍当たりの単価が上昇した。特に郊外で上げ幅が大きい。
前年同期と比較した平均価格単価は全てのエリアで上昇した。特に郊外では平均価格が8都下では、平均価格が8
・1%上昇(4513万円)、単価は8・6%上昇(61・9万円)した。
上期の初月契約率は平均78・4%で、好不調の目安とされる70%を大きく上回った。上半期としては5年続けて70%台となつた。
6月単月の新規発売戸数は3503戸。前年同月に比べて28・3%減少した。1戸当たりの平均価格は4830万円で、前年同期比5・8%アップした。単価は5・2%上昇して70・7万円となつた。
東京都区部8827戸(シェア45・5%)、都下1672戸(8・6%)だった。シエアは0・2ポイント下げ54・1%だった。
神奈川県4598戸(23・7%)、埼玉県215戸(11・1%)、千葉県2138戸(11・0%)と1平方㍍当たりの単価が上昇した。平均価格は1戸当たりの平均価格と1平方㍍当たりの単価が上昇した。特に郊外で上げ幅が大きい。
前年同期と比較した平均価格単価は全てのエリアで上昇した。特に郊外では平均価格が8都下では、平均価格が8
・1%上昇(4513万円)、単価は8・6%上昇(61・9万円)した。
上期の初月契約率は平均78・4%で、好不調の目安とされる70%を大きく上回った。上半期としては5年続けて70%台となつた。
6月単月の新規発売戸数は3503戸。前年同月に比べて28・3%減少した。1戸当たりの平均価格は4830万円で、前年同期比5・8%アップした。単価は5・2%上昇して70・7万円となつた。
東京都区部8827戸(シェア45・5%)、都下1672戸(8・6%)だった。シエアは0・2ポイント下げ54・1%だった。
神奈川県4598戸(23・7%)、埼玉県215戸(11・1%)、千葉県2138戸(11・0%)と1平方㍍当たりの単価が上昇した。平均価格は1戸当たりの平均価格と1平方㍍当たりの単価が上昇した。特に郊外で上げ幅が大きい。
前年同期と比較した平均価格単価は全てのエリアで上昇した。特に郊外では平均価格が8都下では、平均価格が8